

Principal Correspondence

自分らしくあるとは？

スポーツ界では、よくお相撲さんが「自分の相撲を取りたい。」とか、野球の選手が「自分らしいバッティングができたらい。」とか、テニスの選手が「普段の自分を出していきたい。」と言うことがあります。

自分らしいということは一体
どういう意味でしょうか？



トップのプロの世界は実力がほとんど変わらないと言われますが、その中でもチャンピオンになる人と、なかなか成れない人がいます。それは心理学的にいうと、プロの選手でも、試合は練習のときのようなパフォーマンスが毎回できるとは限らないからなのです。緊張してあがってしまったり、実力以上に力を出そうと力んだりすると、バランスが上手く取れずに負けてしまう。平常心で落ち着いてなお、練習どおりに力が発揮できればということ願って「自分らしく、普段の練習どおり。」と念じているわけです。ひるがえって、よく社会では「自分らしいのがいいんだよ」とか「ありのままでよい」ということが多いのですが、それはどういう意味でしょうか？

自分らしさにもいろいろあります。「それぞれの個性を大事にすればよい。」とも取れますし「自由に自分を表現することは大事」という意味にも取れます。それらは他人に迷惑をかけない限り大事な「自分」だと思います。



しかし、少なくとも（教育の場では）
「いつもゲームをやっしまい、宿題をおろそかにする自分」
「これはやろうと自分に約束して、またできなかった自分」
「本当はこうするのが正しいと思っているができない自分」が「ありのままでよい自分」ではありません。

小学生時代は、人生の生き方の基本を学ぶ時期ですから、自分らしいという事は「弱い心に負けない自分」になる事でもあると、気付かせていきたいと思います。



Principal Correspondence

秋の夜長に考えたこと

みなさんは「文明」と「文化」の違いをご存知ですか。

一下記は作家の司馬遼太郎さんの説ですー

「文明」は

世界の誰でもグローバルに、アメリカ人だろうがアラブ人だろうが、中国人だろうが、「便利」で「わかり易く」あるいは「かっこいい」もの。自動車、コンビニ、電気製品、クラシック音楽、ジーパン、ファストフード(注1)等々…

(注1：早い飯という意味で「FAST/ファスト」と言います。FIRST/ファースト「一番の料理」という意味ではありません。)



これに比して「文化」は

ローカルで、地域的で、あるいは民族の中で共通して持つ価値観……。その民族や地域だけで認められる行動様式、風習や物を「文化」と言います。

☆ターバンはインド人の間ではかっこよいし意味があるでしょうが、日本人は巻きません。

☆ドイツでは町によって違う自慢のソーセージ。

☆フランスの町々で競い合うワイン。

☆世界各国の祭り。



日本での数々の風習、初詣、茶道、華道、スローフード、郷土料理、冠婚葬祭。茶道や、わびさびの文化などは、中国やアメリカの大衆に圧倒的に広まることは無いかもしれませんが(これは私の偏見です)、日本人にとっては意味があり安らぐのです。

世の中、全て「文明」だけだとしたら……

コンビニやスーパーやショッピングセンターと、ファストフードだけだったら、便利だけど味気ないかも？何か物足りないと感じるかもしれません。

そこでしか味わえないローカル性、そこに住んでいる人同士には、生きている意味と安らぎを与えてくれるもの、これが「文化」です。これからは「文化」を磨く時代が成熟社会というものだと思います。

ところで「文化」はまれに「文明」に昇格するものがあります。

「クラシック音楽」や「ミュージカルやオペラ」は、西欧の一地域の「文化」でしたが、今は磨かれ、洗練されて、成熟した普遍性を持ち、万人に理解できる人類共通の「文明」に昇格しました。クラシックはアジア人も、ヨーロッパ人も、アメリカ人も皆聴きます。日本発の「ジュードー」「マンガ」「寿司」も、世界中で誰もが認める「文明」になりかかっていると思いませんか？

今後日本から世界に発信できる「文明」はどれほどあるのでしょうか！秋の夜長が楽しくなってきました。